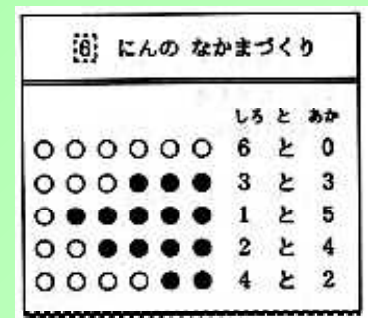


Q：加減計算の仕方を指導する前に、「いくつといくつ」の単元で数を分解することを指導しますが、なぜすぐ計算からやらないのでしょうか。【1年】

A：1年生の計算の学習で押さえるべきポイントは、

- ① 数についての多様な見方をする目を養うこと
- ② 数の仕組みについて理解を深めさせること

の2つで、数の分解と合成はその第1歩にあたります。



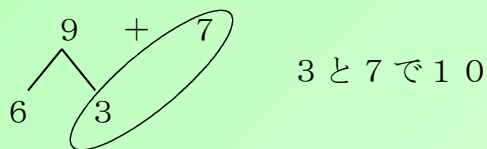
数の分解と合成は、5は3と2（分解）とか、3と2で5（合成）など、加減計算になくなくてはならない基本内容です。

また、生活の中にも容易に見つけることができる事象であり、分解や合成の考え方を理解した上で、生活を見つめたときに、実体験を伴って身につけることができます。単元「いくつといくつ」では、計算を教える単元の一つと狭義で考えず、生活に役立つ算数をめざすためにと考えればよいかと思います。

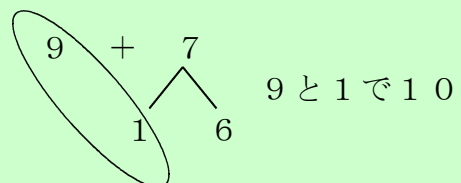
また、計算の学習では、+、-、=などの記号の意味を知っているだけとか、式を見て機械的に答えを求めるだけでは十分といえません。計算の意味や仕方を学習する前に、具体物を用いて1つの数の合成や分解につながる素地を実感させてください。そして、具体物を使った操作的な活動だけでなく、絵や図などを用いて理解したことをまとめさせるなど、数に関する知識を整理することも必要です。更に、「2と3で5」がどんなことを表しているのか、豊かにイメージができる児童を育てるために、「ねこが2ひきといぬが3ひきで、あわせて5ひきになった。」というような、問題づくりを視野に入れて、言語による表現力を身に付けさせることも、数の仕組みを理解する上で必要になります。

最後に、数の分解や合成の考えをしっかりと指導し、計算を教える場面では、これらの既習事項を活用して、児童自らが、計算の仕方を見つけだしていくことを念頭に展開してみたいかがでしょう。例えば、分解・合成が、この後のくり上がり、くり下がりの計算に役立つことを児童が実感できる授業を構成していくことが、まさに既習事項を活用した授業であり、子ども自らが考え出す喜びを味わえる授業となるのです。

<例> 9 + 7 を計算する場合



(被加数9を分解する)



(加数7を分解する)